

高校生発！
私たちの地域づくり！

かかわりを千カラに
つながりをカタチに

第 2 回

地域教育東予ブロック集会 実施報告書

期 日 平成30年2月11日（日）12:30～16:40

場 所 西条市中央公民館

主 催 地域教育東予ブロック集会実行委員会

後 援 愛媛県・愛媛県教育委員会・愛媛県教育研究協議会
「えひめ教育の日」推進会議

日 程

12:00～	受付
12:30～12:50	歓迎アトラクション ～小松高等学校日本音楽部による琴演奏～
13:00～13:15	開会行事
13:15～14:45	シンポジウム「高校生による地域活動の実践に学ぶ」
14:45～15:00	休 憩
15:00～16:30	ワークショップ「若者と共に拓く地域づくりにどのように取り組むか」
16:30～16:40	閉会行事

参加者

参加者総数 81名（内 高校生以下13名）

内訳 一般参加 58名（内 高校生以下4名 協力委員10名）

シンポジウム発表者・引率者 14名（内 高校生9名）

実行委員 9名

歓迎アトラクション ～ 小松高等学校日本音楽部による琴演奏 ～

愛媛県立小松高等学校 日本音楽部

小松高等学校日本音楽部は、「努力・集中・和・感謝」をモットーに日々練習に励まれています。先輩たちが築いた全国大会9回出場という伝統を大切にしながら、地域でのボランティア演奏にも力を注いでいます。

今年度は、西条市で開催された「えひめ国体」少年女子ソフトボール開始式で演奏を披露し、多くの皆様に喜んでいただき、大会に華を添えられました。

東予ブロック集会では、「風神&雷神」「三つのタンゴ (ジェラシー、ジプシーの唄、ラ・クナルシータ)」を演奏し、会場を盛り上げました。



小松高等学校日本音楽部による琴演奏

開会挨拶

実行委員長 関 福生

今年度も12月9日から10日に国立大洲青少年交流の家において、地域教育実践交流集会が盛大に開催されました。文部科学省の委託事業として3か年実施してきましたが、今年度の大会はこれまでにまして、高校生や大学生の参加が増え、新しい感覚や発想があふれる学びの場になったと感じております。

平成28年度から選挙権年齢が満18歳に引き下げられ、高校生も地域づくりの当事者として位置付けられました。これまで、高校生は小中学生とは異なり市町からは何となく距離感があり、疎遠な関係だった気もしていましたが、ここ最近は距離が急速に接近し、協働の活動も増えてきていることをうれしく思っています。

愛媛の大会と同様に文部科学省事業としてコンファレンスを開催した北海道に11月に伺いました。そこでは、道内各地から高校生（私学が多かった）が集まり、公民館職員や教育委員会関係者の大人たちとグループになって熟議を展開していました。「どうすれば、若者が地域づくりに参画できるようになるか」がテーマでしたが、その熟議のイニシアティブは高校生たちが握っていました。その時に私が感じたことは①これまで本気で高校生の意見を聞く耳を大人は持っていなかったのではないかと。②話し合いと言いながら、大人の流儀を押し付けてしまい、高校生には何の魅力も感じていなかったのではないかと。③大人はスーツにネクタイ姿で堅苦しく、BGMも流れない、飲み物もお菓子もない雰囲気は高校生には馴染めなかったのではないかと。こんなことを直接高校生から聞かされ、大きなショックを受けたというのが正直なところでした。本当に真摯に熟議に取り組む姿に感動すら覚え、そのストレートな思いを受け止める姿勢を大人が持たなければ、若者との共創はできないと再認識いたしました。耳の痛い話を聞いて、それをどう生かしていくかはこれからの大きな課題ですが、北海道だけではなく全国各地で大人と高校生をはじめとする若者のよき関係性を創っていく動きが起こっていることは新しい時代に向けてのよき変化だと思うのです。



今回、私たちの地域教育東予ブロック集会においても、同様の路線を目指そうとしています。昨年度は、他地域の先進事例として岡山県矢掛町、高知県黒潮町そして新居浜市の高校生の実践から学びましたが、今年度は四国中央市、西条市などから様々な分野で地域づくりに関わっている4つの実践を紹介していただき、その後にそれらの活動も踏まえ、「若者と共に拓く地域づくりにどのように取り組むか」についてワークショップを行うことになっています。きっと、充実した有意義な熟議がなされるものと期待しています。多分大人には耳が痛く、ひよっとすると苦痛を感じるかもしれませんが、「良薬は口に苦し」です。この集会がこれからの地域づくりにとって必ずやよき処方箋になるものと確信しています。どうか皆さんの主体的な関わりで、対話を盛り上げ、未来に向けての深い学びを進めてまいりましょう。

最後になりますが、当集会を開催するにあたり、諸般にわたりご尽力いただきました東予教育事務所社会教育課の皆様をはじめ関係各位に心より御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

シンポジウム 「高校生による地域活動の実践に学ぶ」

コーディネーター 実行委員 西山 博

- 1 愛媛県立三島高等学校 美術部
紙芝居「西遊記」
～リュブリャナ大学文学部アジア言語学科とのコラボレーション作品～
- 2 愛媛県立西条高等学校 油系女子
世界に羽ばたく西条高校「油系女子」
～油系女子 地球を救う～
- 3 第15回「民家の甲子園」愛媛県大会実行委員会
民家の甲子園
～第15回全国高等学校対抗民家町並みフォトコンテスト～
- 4 愛媛県立丹原高等学校 園芸科学科
次代を拓く地域創生へのチャレンジ
～地元に残る人材作りを目指して～



紙芝居「西遊記」

リュブリャナ大学文学部アジア言語学科とのコラボレーション作品

私たち三島高校美術部は、平成28年3月より約2ヶ月間かけ、**スロベニア**にある**リュブリャナ大学文学部アジア言語学科**の学生とコラボレーション作品を制作しました。スロベニアの大学生が西遊記をベースにしたストーリーをつくり、三島高校美術部がイラストを担当するというものです。演劇用26場面、紙芝居用13場面の合わせて39場面を日本語の文章にしたものを送っていただき、美術部員がそれぞれの場面を担当し、イラストを制作しました。

スロベニアとは、**インターネットを利用したテレビ電話**を用い、制作途中のイラストをみてもらいながらコミュニケーションをとり制作を進めました。スロベニアと日本の時差は8時間あり、ちょうど日本の夕方の時間帯がスロベニアの午前中です。現地でコーディネートをしてくださったのは、スロベニア在住の現代美術作家**バフチチ景子**さんです。「場面ごとの画風の統一感よりも、それぞれの個性を生かした表現をすること」、「キャラクターデザインなど、統一しなければストーリーが伝わらない要素は統一すること」、「文化的背景が全く異なり、西遊記を全く知らないスロベニアの人たちにも伝わるように工夫すること」を確認しながら、制作に取り組みました。制作のなかで、日本の漫画で用いられる記号的表現が伝わるかどうか検討したり、あえて日本のアニメ的表現を取り入れる提案を試みるなど、芸術表現を通じた国際交流の難しさや面白さを感じることができました。

スロベニアと三島高校美術部の縁は、平成26年度にスロベニアの現代美術作家である、**ボヤナ・クリジャネツ**さんを三島高校美術室にお招きして、アーティストトークをしていただいたことから始まりました。

文化的背景が全く異なるスロベニアの大学生とのコラボレーションという事で、三島高校美術部一同とまどいながらも刺激的な経験をさせていただきました。また、リュブリャナ大学での発表がきっかけで、日本大使館で行われた「JAPAN DAY」でも三島高校美術部の作品がスロベニアの人々に向けて発表されたそうです。



スロベニア共和国の位置



リュブリャナ大学文学部アジア言語学科の皆さん



スロベニア在住の現代美術作家
パフチチ景子さん



スロベニアの現代美術作家
ボヤナ・クリジャネッツさん



スロベニアとテレビ電話を行いながらの制作

基本的なキャラクターデザインを統一させながら、各部署の特徴的な画風を取り入れる表現に取り組んだ。画材も各自が選んでいる。



西遊記の演劇に作品が使用されている様子



リュブリャナ大学で行われた紙芝居イベントの様子

このプロジェクトは、住む国が違う芸術家たちが集まる芸術団体「art link us」の協力のもと実施されました。



要約:「油系女子」は西条市に登録した市民団体です。

現在、使用済み天ぷら油の回収を行い、ごみの減量や化石燃料の削減、地球温暖化防止、環境保全などに役立て、地域の持続可能な社会を目指す取組を行い、その活動の輪を広げようとしています。

1 「油系女子」結成の経緯

結成のきっかけは、2016年3月に、第4回西条高校イギリス・スタディツアーに参加した際に、ロンドン大学、ケンブリッジ大学や地元の企業と連携して行った持続可能なエネルギー利用についての研修でした。帰国後も、メンバーは、持続可能なエネルギー利用に興味を持ち、天ぷら油回収の活動を開始しました。

2 活動目的

油系女子は、市民と共に、様々な活動を通し、地域社会の魅力を知り、学校内や地域の活性化を図り、グループ全員が、その活動で社会経験を積み、自分の夢を見つけ、それを実現する力を磨くことを目的としています。

3 主な活動内容

「油系女子」は西条市の市民団体に登録したものの、当初はなかなか認知されていませんでした。しかし、学校活動、地域活動、広報活動など様々なことに積極的にチャレンジをし、地道に努力を重ね続けた結果、次第に地域の方々の理解を得られるようになりました。

【学校活動】天ぷら油を精製した燃料で体育祭の屋外電力にする取組、使用済み天ぷら油を使って、文化祭でのキャンドルや竹灯籠作り

【地域活動】土曜夜市やハロウィンなどの出展団体に対してのボランティア活動を行い、出店者から天ぷら油の回収

【広報活動】24時間テレビに出演し、一般の方々から使用済み天ぷら油を回収

このように、「油系女子」の地域におけるボランティア活動や天ぷら油の回収活動は、多くの人の心を動かし、また、参加した生徒もその活動に手ごたえを感じることができ、現在、市内に多くの天ぷら油回収ボックス設置場所を設けて、たくさんの方々の地域の支援者を得ることができています。

4 油系女子 with 愛媛大学 高大連携研究 ～油系女子と愛大が協働プロジェクト始動～

「油系女子」の活動のような取組が全国に広がり、持続可能なエネルギー利用の促進が一層図られることをねらいとし、愛媛大学大学院農学研究科、愛媛大学エコキャンパスサポーター (ECS)、エコバイオ株式会社と連携し、平成 29 年度 愛媛大学地域志向教育研究支援事業「西条高等学校「油系女子」による廃食用油の回収およびエネルギー利用に関する教育研究事業」を進めています。京都市のBDF (バイオディーゼル燃料)に関する先進的取組等の視察、愛媛大学での天ぷら油からBDF化実験体験、てんぷら油の劣化研究、ヤンマー株式会社によるBDF研修等を行っています。

5 世界に羽ばたく油系女子

2018年3月に実施される第6回西条高校イギリス・スタディツアーに参加する「油系女子」2名は、ロンドン大学の博士、現地発電所技術者・研究者に、今まで活動してきた活動実績や西条地域の廃食用油(天ぷら油等)の廃棄・回収に係る現状調査結果などを英語で発表します。

社会連携で地域活性化を図る 「油系女子 天ぷら油回収」 西条高校

・運動会で回収した天ぷら油 2016.8.5



・土曜夜市でのボランティア・ブース出展
油回収 2017.8.5



・24時間TVで油系女子の
活動理念を伝えました。2017.8.27



ごみを減らします。
地球温暖化防止に役立ってます。
地域社会の魅力を知り、
地域活性化を図ります。
社会経験を積み、
自分の夢を見つけ、
それを実現する力を磨きます。

油系女子 地球を救う

・エコな学校行事を实践

「グリーン電力 de 運動会・文化祭」

天ぷら油を精製したバイオディーゼル燃料（軽油代替燃料）で発電した電気で、運動会や文化祭の放送設備の電源を賄いました。



第15回全国高等学校対抗民家町並みフォトコンテスト

民家の甲子園®

約6年前、私はメディアで流れる、大人びて着飾った高校生に違和感をもっていました。それが、この大会に参加した高校生に出会って、その認識が大きく変わりました。高校生ならではの瑞々しい感性・視点の豊かさや面白さ、そして未熟でもひたむきに思いを伝えようとする姿に、心を動かされました。その感動は今でも継続中です。

高校生は、大人さえも忘れかけている、地域の埋もれた歴史や文化・自然に目を向け、地域の声を聴き、自分たちの言葉で私たちに語りかけます。

「自分たちの故郷はこんなに素晴らしいんですよ！」と。

こんな姿に出会うからこそ、自分自身が彼らに恥ずかしくない大人であり、先輩であろうと背筋を伸ばさせてもらっています。

第15回「民家の甲子園」愛媛県大会 実行委員会委員長 處 淳子

民家の甲子園® それは、

100年先の、日本の基盤をつくる責務を担う高校生に、日本の文化に対する関心を高めてほしい、私達が心ならずも、ないがしろにした原点である民家のある暮らしを見直してほしい、という万感の思いをこめて企画されたコンテスト。

今年2018年で16回目となる歴史ある大会です。

1チーム3~5名が、テーマに沿った写真5点と、800字以内のPR文を事前に提出し、大会当日には、学校紹介と作品紹介をパワーポイントを使って7分間でプレゼンテーションを行い、審査を受けます。



平成29年6月19日 愛媛新聞9面

第15回大会テーマ ~流~

全国大会 最優秀個人賞作品『みちくさ』

愛媛県立多度津高等学校 2年

民家の甲子園ホームページより

<https://www.minka-kousien.com/>



動画を使って、撮影現場の方とのインタビュー形式で発表するチームもありました。

写真や文章では伝えきれないものは、身振り・手振り・声色・音楽…あらゆる方法を使って、思いのたけを聴衆にぶつけます！



昨年、第15回愛媛県大会は、地域の有志の方々を始め、愛媛県教育委員会や愛媛新聞社のご協力の下、6月に愛媛新聞社本社1Fホールにて開催しました。

第15回愛媛県大会は、9チームが出場し、上位2チームが8月に石川県で行われた全国大会に出場。実行委員会のメンバーも応援にかけつけました。

結果、愛媛県立今治北高等学校が全国2位、川之石高等学校が全国4位と素晴らしい成績を修めました。



～民営だからできること～

インテリアコミュニティスペース「まちでこ」は、第15回「民家の甲子園」愛媛県大会実行委員会事務局を始め、様々な立場の方が、それぞれのペースで活動を行うための場所と人材ネットワークを民間企業ならではの立場で提供しています。

— 地域環境保全活動 —

— 竹林整備 —

山里を中心に、孟宗竹の畑への侵食が問題となっています。地元ボランティア団体と協力して、竹の伐採方法、処理方法などを学びながら、竹林の拡大防止に努めています。ときには、竹すだれ、竹 TENT 作り、流しそうめんなどを行いながら、伐採した竹の利用方法も考えています。

協力：丹原町高知里山を愛する会
西条市竹林をよくする会

平成 24 年度 地球温暖化防止活動環境大臣賞受賞

平成 24 年度 イオン主催 eco-1 グランプリ全国大会出場

平成 26 年度 アサヒビール主催若武者育成塾 地域/リユージョ賞



— 食農教育 — (食農共育→職農教育→職能教育)

地元小学校や幼稚園と一緒に、農産物の生産を行います。幼児から高校生までの学生がお互いに農業を介して学び合うことによって、共に成長していきます。将来は地域に残って、農業の魅力を伝え、地元の主産業の一つである農業を支えてもらいます。また、自分で農産物を育てることによって、食に興味をもってもらいます。自分たちで栽培したものを調理・加工して食べることで、地域の食文化を伝承するために伝統野菜や郷土料理について勉強します。

協力：西条市立丹原保育所 丹原小学校

— 商品開発 —

- ① 地元周桑地域は名前にも桑の字が入るほど昔は養蚕の盛んな地域で、丹原高校の校章にも桑の葉がデザインされています。その桑の葉を使って機能性のあるお茶作りを目指します。桑茶の持つ効能を調べたり、桑茶の製造方法についても研究していきます。
- ② 丹原町の特産品である「あたご柿」を利用した商品開発を行います。
- ③ 原町産のお米を加工した「おこめん(米粉麺)」のさらなるおいしい食べ方を工夫・研究しています。 協力：JA 周桑

— 食育・商品開発 —

— とんぼ米作り —

耕作放棄地を利用した無農薬・無化学肥料栽培での米作りを行います。名前の由来は、とんぼに優しい米作りを行うということ。近年激減している赤とんぼの置かれた状況を伝えるとともに、消費者に安全で安心な米を提供することを目指します。また、学校の外の圃場を借りることによって、水田を取り巻く社会のつながりについても勉強していきます。

協力：愛媛県東予地方局産業振興課

次代を拓く地域創

～ 地元に残る人材

— 目指す人材 —

- ① 総合 6 次産業都市を支える産業人材
- ② 地域に残る伝統文化を継承する
- ③ 専門的な知識・技術・実践力を身に

愛媛県立丹原高等





－ 鳥獣害対策 －

中山間地域での猪・鹿による畑作物への被害が深刻化しています。赤外線センサーカメラを設置し、獣を観察することによりその生態を学んでいきます。

協力：丹原猟友会

しまなみイノシシ活用隊

－ ハッチョウトンボの保護活動 －

丹原町庄内地区に生存する国内最小のトンボ、ハッチョウトンボ。現在確認できる生息地は、愛媛県では一箇所のみとなっています。地元ボランティア団体と協力しながら、ハッチョウトンボの生態について詳しく調べ、生息地の拡大に向けて研究を行っています。

協力：庄内はっちょうとんぼ保存会



生へのチャレンジ

作りを目指して～

育成機能の確立

付け、リーダーシップを発揮できる就農者

学校 園芸科学科

－ 菊作り文化の継承 －

日本古来から受け継いできた菊作り文化を継承し、次世代に向けた情報発信の取組を行います。奥道後大菊花展、本校菊花展の作品作り、菊作り教室を通して西条市菊愛好家との交流活動を行います。



－ 観光農園でのインターンシップ －

2年生・3年生になると5日間にわたって専業農家のもとでインターンシップを行っています。ブドウやカキなどの観光農園を開園されている農家や産直市場での販売など、多岐にわたって校内では経験できないことを学習します。



協力：丹原もぎたて倶楽部 JA周桑 鎌田農園 雅園 ゆきもの農園 土と暮らす アグリジャパン愛媛

－ 多肉植物の寄せ植え講習会 －

本校では平成19年から多肉植物の栽培を始め、現在では70種類以上も栽培しています。乾燥に強く観葉植物などに比べて手入れが簡単な多肉植物を使って寄せ植え講習会を地域のイベントや公民館、小学校などで行い、多肉植物の普及を行っています。今後は、さらに公共施設で展示や講習会を行うとともに、多肉植物図鑑や寄せ植え方法をホームページにアップして情報発信による普及活動を行います。



－ 地域交流・普及活動 －

シンポジウムの記録

愛媛県立三島高等学校美術部に対して

- スロベニアとの交流ということで、言語は何で、どのようにコミュニケーションをとったか？
 - スロベニアは、独自のスロベニア語である。リュブリャナ大学の学生が日本語で原稿を作成し、それを基に私たちが構想を練って紙芝居を作成した。四国中央市出身でスロベニア在住の現代美術作家の方が、私たちをつないでくれた。
- スロベニアとの交流を通して、ふるさとのよさにも気付いたということだが、どのような気付きがあったか？
 - 私たちの町、四国中央市は産業が盛んで、特に紙産業が充実している。私たちは、スロベニアについて知らなかった。文化も観光も。そこで、互いを紹介し合う中で、改めて四国中央市のよいところはどこか探るきっかけになった。スロベニアの人は日本のアニメが大好きである。日本はアニメをもっとアピールしていったらいいと思う。
- 今後の活動の予定は？
 - 自分たちはもうすぐ卒業する。後輩の2年生は、近所の病院と連携し、ホスピタルアートに取り組んでいる。患者や入院している人の気分が明るくなるように、病院の壁や駐車場に絵を描いている。
- 地域貢献について。い三島高校はいろいろな所に絵を描いているが、三島高校からのアプローチか、相手からのアプローチか？
 - 大体は、相手からの依頼を受けて地域で絵を描いている。いろいろなつながりができることがうれしい。
- なぜ西遊記か？
 - リュブリャナ大学文学部アジア言語学科で、アジアの言語を学ぶ過程で、西遊記が取り上げられた。西遊記は日本の話ではないが、広くアジアの文化ということで、私たちに話が来た。
- 高校卒業の進路は？
 - 二人は大学に進学する。美術を専門にはしないが、趣味の一つとしてこれからも続けていきたい。
 - 一人は地元の会社に営業職で就職する。美術で学んできた考え方、視点は社会人になっても生きると思っている。絵を描くことで培った創造する力をこれからの仕事や生活に生かしていきたい。

愛媛県立西条高等学校油系女子に対して

- 油系男子もあっていいのではないかと思うが、すばらしい活動をしているので、今後もっと活動の仲間を増やしてほしい。
 - 1年先輩である初代のリーダーは男子であった。油系女子という名前は、後からついた。男子も募集しているが、油系女子という名前のために、引かれてしまっているのではないかと思う。来年度の新入生には、男子生徒にも入ってもらえるように働きかけたい。
- 経費はどのように捻出しているか。これは、大人の役割にもなるかと思うし、高校もさらに力を入れてくれるのではないかと思う。希望はあるか？
 - イベントなどでラムネや焼き鳥などを売って経費を稼いでいる。基本的に学校の経費ではなく、高大連携企画では、愛媛大学の方から経費が下りる。
- 発表の中にあつた、イギリススタディーツアーについて、教えてほしい。
 - 初代がイギリススタディーツアーに参加し、ロンドン大学で持続可能なエネルギーについて学び、私たちの地域でもそれをできないかということで、エコバイオ株式会社との協力

の下でBDFをメインにした活動が始まった。1年生がこの春また参加することになっている。イギリススタディーツアーは、自費で参加している。

- 回収して終わりではなく、このように再生できるということを体育祭などで示していることがすばらしい。今後どのように活動したり、PRしていくのか？
- 体育祭ではマイクの電源だけを賄っているが、文化祭では2年生が出店している屋台の燃料を賄っている。今後も体育祭や文化祭等やイベント等で、回収油を再生した燃料で発電していきたい。
- 校内でアンケートをとったが、私たちの活動はあまり知られていなかった。同じ高校でこの程度だから、市内まで広げたら、「なんか、高校生がやっているみたいね」と軽く流されているような気がする。また、「高校生だから1年だけなんでしょ」と活動を甘くとらえられているようにも思う。自分たちの本気度を皆さんに知ってもらえるように、これからもっと活動報告をしていきたいと考えている。
- 西条市に登録した市民団体であるが、卒業して西条市を離れたらどうするのか？また、大洲市のおじさんが入りたいと言ったら、入れるのか？
- 私たちは、大学とかに行ったらいったん離れるが、大学生として後援的に、補助的に活動に参加したいと考えている。大人が入るという考えはなかったのですが、協力していただけるのなら大歓迎です。
- 私たちは、西条市、東予地方で活動しているので、ぜひ大洲でもやってもらって、この活動を広げてもらえたらと思う。
- 多くのことに知ってもらおうということは大切なこと。行きつけの銭湯にも、油系女子のポスターが掲示されていて、興味をもっていた。企業やスーパーにも掲示してはどうか。大人ができることはないか。
- 西条高校や商店街にある市民活動センターに掲示させてもらっている。また、数の把握はできていないが、飲食店にもお願いしてたくさん掲示はさせてもらっている。どんどん周知していきたい。
- もっと広く活動を知ってもらうために、市の広報にも掲載してもらってはどうか。
- ツイッターをやっているなので、どんどん広めてほしい。

民家の甲子園愛媛県大会実行委員会に対して

- コンテストは15回続いているが、その間、流行りとか時代の流れがいろいろ変わっていると思う。それを受けて、どのように大会が変わってきたか
- 配点の割合が変わった。昔は写真の配点が高かったが、プレゼンテーションの配点が高くなった。単なる写真コンテストだと思って参加した学校は、残念ながら予選通過せず、次からは参加しなくなる傾向にあった。写真だけでは通用しない。趣旨を理解して参加する学校では、地域に出かけて話をしながら、風景を写真に収めていく活動を通して、子どもたちのコミュニケーション能力が確実に高まっている。発表の仕方も、プレゼンテーションが主になり、音楽で雰囲気盛り上げる学校が多くなった。
- 民家の甲子園の出会いとは？
- 自分の本業は建築業と塗装業。建築仲間と民家の甲子園の仲間に加わろうと話した。ちょうど自分の子どもも高校生として参加することができた。

愛媛県立丹原高等学校園芸科学科に対して

- 授業としてやっていることと、ボランティアとしてやっていることがあると思うが、授業としてやっていることは、資料の中でどの活動か。
- 授業でしているのは、「菊作り文化の継承」と「観光農園でのインターンシップ」である。その他（竹林整備・トンボ米作り・鳥獣害対策・ハッチョウトンボの保護活動・食農教育・商品開発・多肉植物の寄せ植え講習会）はすべてボランティア。農業クラブとしてやっている

- 地域の人と関わりながら活動し、自分たちの活動を地域の人に発表することで、地域のためになっているすばらしい取組である。活動をしていてよかったこと、後輩に伝えたいことはあるか？
- コミュニケーション能力が高まった。後輩たちにも、積極的にボランティアをしてもらいたい。

まとめ

社会では、コミュニケーション能力が大切だとされている。高校生の知恵ややる気を周りの大人は支えていくという役割を果たさなければならない。ちょっとはお金を出すことも必要であろう。

このシンポジウムで、現役の高校生と昔の高校生から、すばらしい取組について発表していただいた。若者と大人が共に協力しながら、地域を創っていくことの大切さが確認できたと思う。これからも、それぞれの地域で活躍の場を広げていってほしい。

ワークショップ

「若者と共に拓く地域づくりにどのように取り組むか」

ファシリテーター 実行委員 宮崎 恵

1 アイスブレイク

- 自己紹介
- 景品をかけたグループ対抗ゲーム
 - ・ ジェスチャーゲーム
 - ・ 漢字ゲーム

2 ワーク① 「もの・ひと・こと」ふるさと自慢

- 有名なものから身近なものまで、自分の知っているすてきなことを付箋に書いて、紹介し合う。

3 ワーク② 自慢をアピール

- 遊び方、伝え方、広げる方法を付箋に書いて紹介し合う。

4 ワーク③ まとめ

- 発表準備をする。

5 ワーク④ ふるさと魅力発信！

- グループごとに発表する。発表者は18歳以下。



ワークショップの記録

【グループ発表の内容】

- 吉野餅、ことぶきや、みかん、魚など、東予にはおいしいものがたくさんある。また、壬生川のパン豆屋さんは、民家の甲子園で丹原高校が発表した。そういったところを、人が集まるところにポスターを作成して貼ったり、口コミ、スマホのツイッターなどで広めたりしたらいいと思う。
- 東予は自然が豊かである。その豊かさを他県にアピールし、愛媛に来てもらう。

イベントを開催したり、SNSなどの情報で伝えたりしたらいい。ツアーや婚活パーティーを開いたらどうか。婚活パーティーでは、民泊や竹テントづくりなどをしてもいいと思う。自然の豊かさや人の温かさを体験してもらう機会を作りたい。
- 自然、イベント、祭りなど、たくさんの魅力がある。自分は、地元の西条祭りを推したい。10月にあるので、ぜひ来てもらいたい。

広める方法としては、飲み会で話すとか、紙媒体を使うとか。紙媒体は四国中央市が助かるそう。また、イベントなどの交流系で広めたり、SNSなどの情報系で広めたり。他にも、スピリチュアル系で神社でひたすら来ることを願うという意見もあった。
- 自慢できるものを、イベント、自然風景、産業、施設、有名人、名物で括った。イベントで特に薦めたいのが、丹原高校の菊花展である。自然風景では鈍川温泉、産業では紙のまち資料館、施設では国立大洲青少年交流の家、有名人は地域の元気な老人、名物は関川の鉱石。

広める方法は、人力、不特定多数、イベントで括った。人力では口コミ、不特定多数ではSNS、イベントでは子どもで釣るという意見があった。最終的には、地域が活性化できればいいと思う。
- 景観、文化、特産品などのよさを確認した。広める方法は、SNSやツアーやイベントなどという意見が出た。

趣旨とは外れるかもしれないが、「子どもが夢を語り、大人がかなえていく地域」にしたいという意見があった。昔、ある市の小学生の代表が集まり、夢を語り合うというイベントがあったそう。でも、何も実現することはなく、発表するだけで終わってしまったそう。

若い世代が夢を語るだけでは何にもならない。そこで終わってしまう。私たち高校生は、財力がない。お金とか権力が一切ない。しかし、それを大人に依存するのではなく、少し協力してもらおう。大人と子どもの二人三脚が重要ではないかと思う。

私たち高校生が積極的に地元のよさを知って発信していく。高校生は一過性のもので、すぐ卒業してしまうので、高校生だった大人の皆さんがそれを受けて、愛する地元を宣伝していくというのが、大切ではないかと思った。
- 風景、地域で元気に活躍する人、祭り、偉人、おいしい水から生まれる酒など、自慢できることがたくさん出てきた。

それらを知らせる方法として、活動をDVDに残したり、フリーペーパーやSNSで情報を流したりするという意見が出た。お酒の試飲会をしてほしいという意見もあった。

私は、身近なところにたくさん魅力があるのだと気付かされた。普段当たり前のように、西条の打ち抜きの水について考えたことはなかったが、その水で造ったお酒がおいしいと力説される方がいて、まだお酒の味は分からないが、成人したらぜひ飲んでみたいと思った。
- たくさんの自慢が出た。私は四国中央市に住んでいて、班の中の西条市や今治市や松山市のことをよく知らなかったが、情報交換で新たな知識を得られて、とても新鮮な思いがした。



自然の中でも、シダが多く茂っていたり、湧水が多かったりと、豊かな自然に囲まれていることを知った。農作物でも、田畑が多かったり、イチゴの産地であったりと恵まれている。また、温泉があったり、俳句が盛んだったり、温かな方が多かったり、地域の人みんなが仲がよかったりという自慢がたくさんあった。宝石が採れるという情報もあった。

(西条市のザクロ石)

知らせる方法としては、自動販売機という意見があった。観光地では、自販機にその地域にしかない商品を入れて観光客にアピールしているそうだ。他にも、SNSやアイドルグループという意見もあった。

○ たくさんの自慢できる場所があったが、その中で人に重点を置いて意見交換した。

私は、挨拶をよくするところという意見を出した。東京に行った時に挨拶をすると驚かれたという経験をした。それで、西条は挨拶がよくできる町だということを知ることができた。その人の温かさをアピールしていけばいいのではないかと思った。

それを伝えていく方法として、お遍路さんのお接待をするという意見があった。今、お遍路さんはブームになっていて、アニメでも人気がある。各地で、お遍路さんのお接待をすることで、人の温かみを伝えていけたらいいと思う。他には、市役所に誰でも書き込めるノートを置いておいて、意見交換ができたらいいいという意見もあった。

【まとめ】

おいしいものがあるということは、大きなアピールポイントだと思う。中には、おいしいお酒とか、飲み会とかいうものもあったが、食を通してのつながりは強いと思う。

アピールしたいものとして、元気な老人というのが出てきたのもいいなあと思った。また、神頼みで運を上げるということもおもしろかった。最後に、ある班から出た、大人と子どもの二人三脚ということ、これから大切にしていきたい。

閉会挨拶

実行委員 谷口 晃

心が温まる思いがしている。シンポジウムでは、「つながりをカタチに、仲間とつながる」「地域とつながる」、そしてつながったものを形にして、その取組の一端を紹介して下さったことに感謝したい。

ワークショップでは、ずっと和気藹々と、小学生から大人までが共に活動していた。共に集うということがすばらしいと思うし、さらに、共に考え、共に話し合う、共に知恵を出し合う、みなさんの笑顔のもとになったのが、「共に」ということだったのだと思う。本当に有意義な時間だった。

小学生、高校生のみなさんへ。真摯で前向きで、時に力強く、明るい皆さんの姿に感動した。ワークショップの発表のときも、落ち着いて自分の言葉で発表するのを見て、立派だなあと感じた。今日は、大きな大きな力をもらった。私たちのこれからの大きな励みになった。ありがとうございました。

大人の方へ。若い人たちは、今日の交流を通して、こんな大人になりたいと思ったかもしれない。今日集った大人の皆さんは、普段から地域に貢献したり発展させようとしていたり、子どもたちに何かできることはないかと活動したりしている人ばかり。若い人たちには、将来こんなおじちゃんやおばちゃんになってほしいなと思う。ありがとうございました。

「つながりづくりは人づくり」と言われる。その人とは、私自身だと思う。つながりを作ることによって私自身がつくられていく、私自身が豊かになっていく、ということだと思う。今日も、みなさんのおかげで私自身が成長できたように思う。これからも、つながりを作って、互いに人づくりを、互いを高め合っていきたいと思う。本日はありがとうございました。今の温かな気持ちを思い出しながら、封筒に入っている入浴剤で、家でもホッコリしてください。

アンケート集計結果（回答者 56 名）

【年齢】

10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上
11	0	4	14	14	8	5

【所属】

小・中・高校生	教職員	保護者	公民館	青少年健全育成団体	市町行政	その他
11	13	3	2	3	6	18

1 シンポジウム（高校生の実践報告等）はどうでしたか。一つ選んで○をご記入ください。

ためになった	ためにならなかった	どちらともいえない
54	0	2

10代

- 四つとも、「つながり」というものがあり、とてもいいプレゼンだったと思います。
- 自分たちの活動について知ってもらい、積極的な意見がうれしかったです。
- いろいろ学べてよかったです。
- どの学校の人も発表がすばらしかったです。
- 同じ高校生の活動を知れてよかったです。
- 他の高校の活動を知れてよかったです。
- 緊張しました。他の学校や民家の甲子園の話聞いてよかったです。

30代

- 自分たちの知らないところで、活動されている高校生が多くいることを、上手に大人が広報していかないとだめだと思った。
- 高校生の実践報告は、とてもレベルの高いものだった。

40代

- 高校生のひたむきな姿勢に感心しました。
- 他校の取組内容を知る機会となり、今後の自校の活動への参考となった。
- 勉強になることがたくさんありました。今日は参加できてよかったです。
- 高校生の熱意が強く伝わる発表でよかった。様々な実践報告は、自分たちの活動の参考になった。
- 地域で活動している内容、高校生の声を聞くことができ、大変よかったです。何より地域の方との関わりについて詳しく聞くことができたのがよかったです。
- 高校生のパワーや思いを感じた。子どもたちが地域のために、自分たちができることを考え、実践できることがすばらしかった。

50代

- 一つ一つすばらしい取組でした。地域や国際的なつながりが感じられました。
- 地域を愛し、地域をよくするための各学校の取組をたくさん聞かせていただいた。他にも同じように考えている若者がいると思う。バックアップできる環境を作らないといけない。
- 高校生の活動を知ること、そして、共に活用していくこと、大事にしたいと思います。
- すてきな高校生が多いことに感動しました。こういう機会があったので、それを知ることができました。

- 積極的に活動する生徒からエネルギーをもらいました。

60代

- 高校生が頼もしく思いました。
- 高校生の地域に根差した積極的な活動の様子が分かり、感心しました。自分にできる支援があればしていきたいと思いました。
- 高校生が地域に出て一体となって活動していることに感動しました。
- 熱心な取組が見られて大変よかったです。
- 地域の人との関わり、協働していることがすばらしい。
- 活動に感激しました。
- 高校生の取組から大人が学ぶべきことがたくさんありました。ありがとうございました。

70以上

- 高校生等をもっと援助すべき。

2 ワークショップはどうでしたか。一つ選んで○をご記入ください。

ためになった	ためにならなかった	どちらともいえない
47	0	4

10代

- とても楽しくてよかったです。急なプレゼンテーションで班の皆さんに迷惑をかけましたが、とてもいい経験になりました。
- 年齢をこえて、様々な人と関わることができてよかったです。
- 霧の森大福が食べたくなりました。スピリチュアル大事。
- 難しかったです。
- 緊張した。でも楽しかった!!
- いろいろな人と話せて、楽しく学びました。

30代

- 他の方の意見を聞くことは、いつも新鮮で学びがある。
- 様々な意見が出て有意義であったと思います。
- 各班のファシリテーターを大学生にしてみてもはどうでしょうか。
- 「方法の目的化」には気をつけないといけないと思います。ワークショップをやること自体が目的化してしまうと何も残りません。まったく役に立たなかったとは思いませんが、半分は発表のための発表、大人の満足に子どもの資源を使ってしまう印象です。

40代

- 地元以外のよさを知ることができました。
- アイスブレイクからワークの仕方など、多くの人から意見を出す方法など、手法が勉強になりました。
- 高校生の素直な意見が聞けてよかった。
- PRの手法はたくさん出ましたが、SNSの活用については、自分自身もっと勉強しないといけないなと思っています。
- 愛媛の魅力を発見、確認することができた。発表でも高校生が自分なりに一生懸命に頑張ってくれてよかった。

50代

- 年齢の違う人たちが一緒にするというのが、よかったと思います。年齢が違っても、思いや考えは同じなのだとすることもわかりました。
- 楽しく参加できました。

60代

- 子どもたちが入ると、いつも以上に大人も元気になれる。

- 司会の宮崎さんの盛り上げ方が大変上手で、高校生や他地域から来てくれたいろいろな方たちと楽しく交流できてよかったです。
- 若者と共に拓く地域づくりの入口には立てたと思うが、もう少し高校生の発表を生かしたワークになれば、もっとよかったと思う。
- 高校生の立派な発言に、将来を安心しました。
- 内容はよかったのですが、それぞれの方々の活動の様子も聞きたいと思いました。
- 若い人も交えて意見交換できて、新たに感じたことが発見されよかったです。
- 楽しく過ごしました。

70以上

- 短時間の中で考えをまとめるチャンス。
- もう少し時間がほしい。

3 来年度(H29年度)、本集会で扱ってほしいテーマ・内容等をお書きください。

10代

- 班での交流がとてもよかったですと思います。
- 次も油系女子で参加させていただきたいです。
- どんな内容でもイイと思います。

30代

- 広報の仕方、種類について、具体的な話。
- 伝えるためには、地域のよさについて話し合い、意見を出すことも重要だが、誰に伝えるかを明確にし、より実践的な意見を聞きたい。
- 地域連携の方法や取組について。

40代

- 地域活動の取組に向けて。何がいる、いつ始める、どうして始めたなど、これから新たに始めたい人に向けて。

50代

- 地域活動の事例紹介、交流が積極的に行われるためには、地域における課題を整理し、各団体がそれらを共有してチームで取り組むことも大切ではないでしょうか。
- 知・行・楽

60代

- おじさん、おばさんの活動も紹介してほしいですね！若者と大人の接点を広げるような内容を期待しています。
- 高校生が多いので、「主権者教育」を行っては？選挙権が18歳になりましたからね。
- 今年の高校生の発表もよかったです、ぜひ地元で活動している団体の発表もほしかったです。

70以上

- 他の地域の高校生にも関心をもってもらいたいと思いました。いろいろな機会に、このような取組を広めてください。
- 我が町、住んでいる所を客観的に捉えるタイミングで、今回のようなテーマがよい。(皆さん、環境が違うため)

4 感想やご意見等、自由にお書きください。

10代

- 自分だけでなく、地域の方が自発的に地域発展に取り組まれており、熱い情熱を感じました。大人の意向、子どもの夢を二人三脚で生かし、ふるさとを盛り上げたいです。

- ワークショップのプレゼンテーションまでの時間を少し増やしてほしいです。とても楽しくて勉強になりました。
- 今までこのようなことを経験したことがなかったので、とても自分のためになりました。
- 「つながりづくりは、人づくり」っていいですね。
- たくさんの意見を聞いて楽しかったです。
- コミュニケーションがとれて、とてもよかったです。
- 大人と高校生の意見が聞いてよかった。
- 出た意見をすぐにまとめる力が必要だと感じました。また、地域の魅力を再確認できたと思います。
- ふだんはできない体験ができてよかったです。

30代

- 去年も参加させていただきましたが、多業種、異業種、高校生との交流ができる場をもたせていただき、ありがとうございます。
- つながりを深めるコーディネーターは、どのようにしているか知りたい。
- 未来の子どもたちに残せる資源は少なくなる一方で、大人は子どもに何が残せるのか考えた方がいいと思います。時間も資源の一つです。同じ時間を使うなら、大人も必死で勉強して、質の高いものを使う必要があると思います。特にファシリテーションの質を上げるためには、大人もかなりトレーニングが必要だと思いますし、高い質のファシリテーションを提供する場面を子どもたちに体験させられないと意味がないと思います。

40代

- 意見交換の時間が少なく感じました。
- 高校生のエネルギーに感心しましたし、将来性を感じることができました。参加させていただき、誠にありがとうございました。
- とても楽しく感動しながら参加させていただきました。子どもたちの未来のために、できる協力をしていきたいと思いました。
- また来年も参加したいです。
- ワークショップの時間をもう少しもらえればよかった。
- 今回も貴重な経験の場をご準備いただき、ありがとうございました。
- お世話になりました。若い力のすばらしさを感じた一日となりました。今後も自分の地域を愛し、つながりを大切にする人が育ってほしいと思いました。

50代

- 若い子たちの意見が聞けるっていうのはいいですね。高校生、大学生を交えてできるといいと思います。
- 今回、新居浜より参加させていただきました。生徒さんの活動が地域と一緒に頑張っている姿が素敵でした。
- 高校生の活動に注目し、連携していきたい。
- 今日は参加できてよかったです。つながれば理解できて、偏見がなくなる。知る、つながることの大切さを、改めてわかりました。ありがとうございます。
- 日程について、もう少し効率化を図るなど時間短縮を行い、印章強く行事を組み込むことも検討してほしい。
- たくさんの参加者の考えを知ることができ、この雰囲気がすばらしいと思います。お世話にくださった方々に感謝です。
- ホッコリさせていただき、ありがとうございました。

60代

- 子どもたちも参加するワークショップもよかったです。
- 大人と高校生が交流する機会を久しぶりに体験でき、すばらしいひとときを過ごすことができました。高校生の若さ、やる気に触れ、感動しました。
- ファシリテーター宮崎さんはとてもよかったです。お菓子がとてもおいしかったです。

- 大会の参加者がもう少し多くてもよいのでは？150人位。
- 大変お疲れ様でした。これからも毎年開催してください。
- 地域のことを改めて考えることができました。学生の方々の活動に、元気をもらいました。
- 資料表紙の合言葉に納得しました。今日、集会に参加してよかったです。

70以上

- 高校生のパワーとその取組に感動しました。次の世代につなぐ取組を深めてくれることを祈っています。
- 若い人との交流ができ、頑張っている様子が分かった。孫以外の高校生と接する機会が少ないので、自分を見つめることができよかったです。ありがとうございました。地域づくりに生かしたいです。元気、パワーをいただきました。
- 頭の活性化につながるので元気になる。地域で話したい。年代を越えてワークショップができる。2年目になるが、参加するのが楽しくなる。発表した皆さん、御苦労さま。ありがとう。
- 私の住む地域では、高校生の存在感が少し薄い地域ですが、今日参加して地域のことを考えていた高校生がいることに安心しました。